

■アメリカ・コンラッド協会—第127回 MLA 年次大会

2012年1月5日～8日、アメリカの Modern Language Association（現代語学文学協会）の年次大会がシアトルで開かれた。MLA Handbook や MLA International Bibliography で知られるこの巨大な組織の年次大会は、750余もの分科会（パネル）からなる大規模な催しである。朝早くから夜まで、時間帯によっては30もの分科会が同時進行する。1つの分科会は75分を1単位とし、各々たいてい2～3個の口頭発表からなる。この枠組みの中で、例年どおり、アメリカ・コンラッド協会 (The Joseph Conrad Society of America)による分科会が、二つ開催された。一つは、2012年が回想録 *A Personal Record* と短篇集 *Twixt Land and Sea* の刊行100周年であることから、この2作品を扱う分科会（パネル1）、もう一つはフォークナー協会 (William Faulkner Society)との合同による（パネル2）。

そもそも、MLAは、1883年創立以来、「言語(Language)」を中核に、その具体的現象としての「文学(literature)」と「教育(learning)」を加えて3本柱として、北米での人文系の研究・教育を代表する組織である。その年次大会においてアメリカ・コンラッド協会に割り当てられた分科会の規模・役割は、たとえばイギリス・コンラッド協会が毎年主催する国際会議とは事情が全く異なる。MLA年次大会に出向くとすれば、膨大なプログラム (PMLA 127, no. 5, 2011)を通覧する醍醐味とともに、その中でコンラッド分科会を位置づけるという関心なしには、意義あるものとならないであろう。

まず、コンラッド分科会のパネル1（司会: John Peters）についてみると、“Conrad’s *A Personal Record* and *Twixt Land and Sea* at One Hundred”というタイトルのもと、3つの発表があった。この「100周年」という括り方に対してテーマ性が明記されているわけではないが、1911-12年に Conrad’s critical turn を見ようとする隠しテーマがあるように窺えた。最初の発表は、Richard Ruppelによる *A Personal Record* 考。 *Homosexuality in the Life and Work of Joseph Conrad* (2008)の著者である Ruppel は、この回想録の中、「イギリス人男性の目線」を模した立場で語られる箇所注目し、いくつかの対人関係での政治性を検証した。続いて、今回の対象2冊について superior

homo duplex の概念で関連づけを試みた Chris Cairney。最後に、'Twixt Land and Sea の“Freya of the Seven Isles”を取り上げた Mark Deggan がピアノやワグナーへの言及に注目して、この短篇に通底する音楽劇（映像・音響）の要素を考察した。参加者は約 20 人。

フォークナー協会との合同によるパネル 2（司会: Christopher GoGwilt）は、“Conrad and Faulkner: Revisiting the Modern”というタイトルにみるように、二人の作家をモダニズムの系譜で関連づけようとするもの。最初の発表者は、*Our Conrad: Constituting American Modernity* (2010)の著者 Peter Mallios で、このパネルでの基調発表の役割を果たした。続く 2 人は「コンラッドとフォークナー」で博士論文を終えた若手で、一人は *Light in August* と *Nostromo* を社会批判の観点から、もう一人は *Absalom! Absalom!* と *Lord Jim* のテキスト間の共鳴(resonance)に注目した発表を行った。参加者は約 30 人。MLA からコンラッド協会に割り当てられる 2 つの分科会のうち 1 つが別の学会との合同になったのは数年前だそうで、学会相互間の交流活性化というその意図は、双方に歓迎されているようであった。

巨大な MLA 大会においてコンラッド関連の分科会は 75 分が 2 つだけであるが、逆に、特定の作家名を冠する学会が長年にわたり 2 つの部会を毎年欠かさず主催している例は多くないとのこと。となれば、アメリカ人ではない作家を扱うコンラッド協会は、むしろ例外的な位置を確保しているともいえる。なぜか？という私の質問に、あるコンラッド研究者から、*The Portable Conrad* (1947)を編んだ M. D. Zabel が敷いた素地という意外な答があった。また、過去の MLA コンラッド分科会のプログラムを遡ると、Teaching “Heart of Darkness” (1990), Teaching “The Secret Sharer” (1997), Conrad and Poland (1993)など、満員御礼の会を主催してきたことがわかる。こうして積み重ねられた実績も、上記の問いに対する答の一つであろう。

MLA での 2 つのコンラッド分科会は、アメリカ・コンラッド協会自体の年次大会を兼ねており、発表内容は協会のニューズレター *Joseph Conrad Today* で詳細に報告されている。MLA でのコンラッド分科会の規模・プログラムは、日本コンラッド協会が年 1 回の学会開催を試みる際、モデルとして参考になることがありそうである。

— 設楽靖子